

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	VIVO HOUSE アンツ美原オレンジルーム			
○保護者評価実施期間	令和5年12月11日 ～ 令和5年12月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和6年6月3日 ～ 令和6年6月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	パソコンやタブレットを使った学習用ソフト"すらら"を導入。日々の宿題以外の学習への取組に活用している。 また、子どもの認知発達段階に合わせた療育としての自立課題。個別支援計画の5領域の認知・行動、言語・コミュニケーションの領域に位置づけている。 区分しては①ブツイン、②マッチング、分類、③組立、分解、④バックページング、⑤学習、⑥事務処理、⑦身辺自立など。 日常3つ～5つぐらいの課題を実施。 テーマは「自分でできる事をする」、「自分で始めて自分で終わる」。2019年6月から導入し利用児童の中にも日常的に定着している。	自立課題については子ども達が飽きない様に教材の追加作成。難しかった教材の修正版の作成。出来たことへの評価とご褒美(シールシートによる評価とご褒美としてのお宝の提供)。ワークシステムの設定の応用。	太田ステージの言語理解度(LDT-R)の指標を基に、の認知発達段階のステージの低い子どもへの療育の課題提供の幅を更に広げたい。
2	ほとんどの利用児童が児童発達支援からの利用。保護者との関係性については、良好な関係性ができていると考えています。	日々の送迎での保護者への利用報告に加えスマホ等によるHUGシステムによる写真や活動記録の閲覧ができるようになっていきます。	活動記録の内容の充実。
3	職員の就業定着率が高い。 常勤3名中、(管理者を除く) 5年以上の経験者2名。 3年以上の経験者1名。(内、保育士1名) 非常勤4名中、 5年以上の経験者2名。 2年以上の経験者2名。(内、保育士1名)	業務分担の適切化(なるべく個人に集中しない様に分散化)。希望する休暇の取得。 補充人員が必要な際の求人募集を迅速に行うことにより、現場への負担を軽減する。 未経験者でも自社で育てる。 非常勤職員から常勤職員への転換システム。	職員の更なる障がい理解の推進として、外部講師による発達研修の実施。専門コンサルタントを利用し外部からの指摘を受け入れ施設の強靱化の追求。 職員が療育プログラムの作成や充実により顧客満足度の追求。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	大半の利用児が地域小学校の支援級に所属している傾向から、学習面については、日々の宿題への対応とプリント学習、自立課題を提供している。但し、個別支援計画の5領域の人間関係・社会性、言語・コミュニケーションの領域についての取組が弱いと感じている。	個別支援計画の5領域の人間関係・社会性、言語・コミュニケーションの領域についての取組を強化するにあたって、職員が複数の子どもと関わりを持ちながら、楽しく小集団活動ができるカードゲームやボードゲームを利用したアナログゲーム療育を取入れる予定です。	1月から7月までの間に外部講師に依頼して職員研修を実施予定。コンサルティングを受けながら小集団活動に対応できる職員の育成をする。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 VIVO HOUSE アンツ美原オレンジルーム

公表日 令和6年10月31日

利用児童数 1

回収数 1

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。				1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和6年10月31日				
VIVO HOUSE アンツ美原オレンジルーム						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		療育プログラムは、主に1階訓練室で実施しています。 2階訓練室でおやつやお弁当を食べたり、食	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		管理者兼児童発達支援管理責任者 常勤 1名 保育士 常勤 1名、非常勤 1名 児童指導員 常勤2名、非常勤3名 あい・さかいサポートリーダーの配置人数 2名	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		療育プログラムによってフロアを分ける等狭いながらの工夫しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		療育プログラムによってフロアを分ける等狭いながらの工夫しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3		虐待防止委員会、保護者サロンにより保護者からの意見を伺い改善に取り組んでいます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		月次のミーティングや外部講師を呼んでの研修会を年2回程度実施。また児童発達支援管理責任者実践研修に年1名を参加させていま	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		月1回毎月20日前後に次月のスケジュール表として、療育プログラムの内容の案内を保護者様向けに配布しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		アセスメントについて、令和元年度から「太田ステージの評価法」を取り入れ全利用児に言語解読能力テストを実施。また日常生活の能	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		6か月に1度、保護者様にお電話またはご来所頂いてモニタリングを実施しています。 期間内の活動記録とアセスメントをもとに児	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容について具体的な内容を精査する必要がある。現時点では模索中。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		創作課題などは常勤、非常勤の担当者がローテーションで立案しています。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		上記3-①の「太田ステージの評価」を基に個々の発達課題に合わせた自立課題の取組みが定着しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・毎朝の朝礼 当日のご利用のお子さまについての保護者様からの利用の変更、送迎時間確認、体調面など	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		定期的におやつや買物で自分の欲しいおやつを選ぶことで自己決定の機会を設けています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		地域の子育て支援課（家事相）、相談支援事業所、学校との連携で該当するお子さまのサービス担当者会議に定期的に参加をしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		地域の子育て支援課（家事相）、相談支援事業所、学校との連携で該当するお子さまのサービス担当者会議に定期的に参加をしています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		支援学校のお子さまは、学校送迎時に担任の先生からの引継ぎを中心に当日の様子を確認しています。	課題は、地域小中学校のお子さまへの支援内容について、より一層情報共有を図れる様にする事です。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	2		ここ3年間卒業生がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3	地域小 2年生の町探検で来所されています。	学童との連携について検討します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		3		参加検討中です。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2	1		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3		年1回アンツ美原とアンツ美原オレンジルームをご利用中の保護者様がお集まりいただき保護者サロンを実施しています。(今年は11月14日(木)に予定)	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		昨年度8件の苦情、意見についてご指摘をいただきました。主に帰宅後の保護者様が児童のケガを発見した場合にお伺いするケースが大	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		日々の活動内容をサービス提供記録としてスマホやパソコンで写真付きで閲覧できます。また、支援内容の記録として個々のプログラ	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		物理的な書類については鍵で施錠できる場所に保管。クラウド上のデータについてID、パスワードにて管理している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		地域小学校の小学2年生向けの町探検の見学施設に毎年来所頂いています。	課題は、地域小中学校のお子さまへの支援内容について、より一層情報共有を図れる様にすることです。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		緊急時対応マニュアル、事故対応マニュアル、感染症マニュアル(簡易版)を設置しています。職員への周知については月例のスタッ	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		年2回のBCPの研修の実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		保護者からの指示により服用を実施。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3			現在、食物アレルギーについての医療的ケアを必要とするお子さまのご利用はありませんが、必要の際は当事業所の協力医療機関と連
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		7月と3月に2回の避難訓練を実施しました。今年は美原消防署の立ち合いでの実施は不可でした。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		外部研修1回。内部研修2回。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3			